

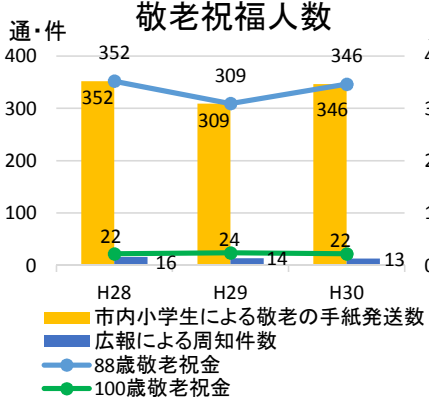

# 課別事務事業評価取りまとめ表 福祉課

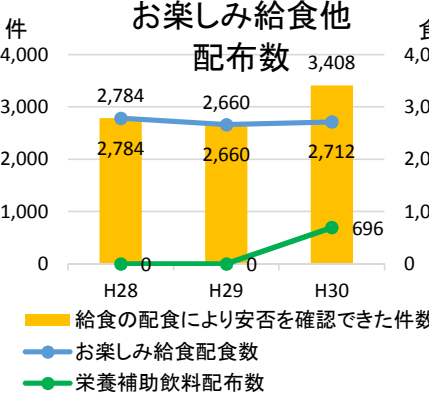

NO	68	健康福祉大会参加人数		評価に対する今後の方向性	維持継続
事務事業名	健康福祉大会事業			楽しくためになる講演を聞いていただけるよう、講師の選定や講演内容の選定を行ったことにより、参加者数が微増していることがうかがえるので、講演の企画にも注力していきます。 また、講演以外の部分(健康ブース等)の魅力をあげていきます。	
事業内容	市と北杜市社会福祉協議会との合同開催で実施する。 期日:平成30年10月6日(土) 内容:各種表彰(ダイヤモンド婚、4世代同居等)、お笑い理学療法士 日向亭葵氏「笑いながら介護予防!」～転倒しない3つの習慣～、各種健康測定等			課題と改善策	
事業費	358千円	活動指標 (折線グラフ)	健康福祉大会参加人数 (目標400人:実績320人)	達成率	B
担当課	福祉部福祉課	成果指標 (棒グラフ)	健康測定を行った人数 (目標60人:実績52人)	達成率	B
【課題】 幅広い世代の参加しやすい会場設定や講演依頼が課題の一つです。また、参加者間の交流機会の創出も検討課題となります。顕彰と講演がメインになりがちなので、他のイベントとの共同開催なども視野に入れつつ、検討していく必要があります。					
【改善策】 健康福祉大会の本来の趣旨である健康・福祉についての知識の普及と啓発を継続しつつ、他のイベントとの共同開催などにより、幅広い世代の参加を促しつつ、参加者間の交流がもてる場のひとつとして、企画を進めていきます。					

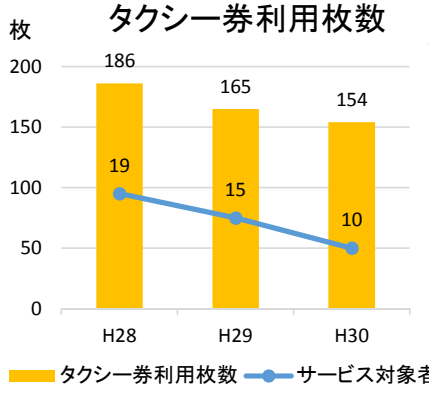

NO	69	シルバーハウジング相談件数		評価に対する今後の方向性	維持継続
事務事業名	シルバーハウジング生活援助員派遣事業			虚弱な高齢者の安心安全な生活のために継続して事業実施していきます。	
事業内容	社会福祉法人高根福祉みのる会と委託契約。シルバーハウジングに居住する高齢者の生活指導、相談、安否確認、緊急時の対応等のサービスを行う生活援助員を派遣し、高齢者が自立して安全で快適な生活を営むことが出来るように在宅生活を支援する。世帯棟5棟、単身棟5棟がある。			課題と改善策	
事業費	1,783千円	活動指標 (折線グラフ)	シルバーハウジング生活援助員相談等件数 (総数40回:実績40回)	達成率	A
担当課	福祉部福祉課	成果指標 (棒グラフ)	集会参加延べ人数 (目標80人:実績32人)	達成率	C
【課題】 委託業者とさらに連携を密にとり情報共有していくことで、居住者が安心して自立した生活の確保ができると考えます。					
【改善策】 これまで以上に委託業者と連携を密にはかかっていきます。					

NO	70	生活支援ハウス入居者数		評価に対する今後の方向性	維持継続
事務事業名	生活支援ハウス運営事業			家族関係・親族関係が希薄化が進行しており、現在では、利用者が減少傾向にあります。今後、必要性はさらに高まるが予想されます。このことから、今後も事業を継続していく必要があります。	
事業内容	社会福祉法人愛寿会に委託。生活支援ハウスの入居者に対し相談、助言を行うとともに、緊急時の対応を行っている。また、入居者の高齢化等に伴い、通所介護、訪問介護等介護サービス及び保険サービスを必要とする場合の利用手段の援助を行っている。また入居者と地域住民との交流を図るための交流事業等を実施する。			課題と改善策	
事業費	8,071千円	活動指標 (折線グラフ)	生活支援ハウス入居者数 (定員9人:実績6人)	達成率	B
担当課	福祉部福祉課	成果指標 (棒グラフ)	交流事業参加延べ人数 (目標120人:実績40人)	達成率	C
【課題】 さらに委託事業者との良好な関係を構築し、利用者にとって不利のないよう対応していくことが求められます。					
【改善策】 委託業者と連携を密にはかり、入居者の情報を共有し、入居者が安心して生活できるように努めます。					

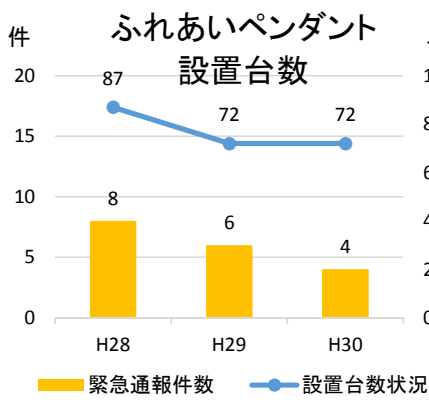

# 課別事務事業評価取りまとめ表 福祉課

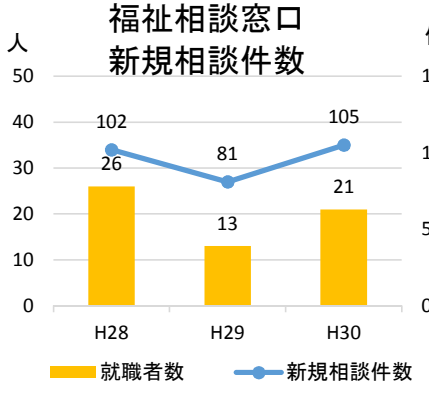

NO	71	 <p>敬老祝福人数</p> <p>通・件 人</p> <p>352 309 346</p> <p>22 16 24 14 22 13</p> <p>H28 H29 H30</p> <p>■ 市内小学生による敬老の手紙発送数 ● 広報による周知件数 ● 88歳敬老祝金 ● 100歳敬老祝金</p>		評価に対する今後の方向性	維持継続
事務事業名	高齢者祝福事業			趣旨及び対象者や対象者の家族の声からも、継続が望まれます。	
事業内容	敬老祝金：9月15日の敬老の日から一週間の「敬老週間」に敬老祝金（満88歳）を支給する。支給については、民生委員児童委員に安否確認を兼ねて配布を依頼。また、100歳に到達した高齢者宅を市長が訪問し、祝金と花束を贈り、長寿を祝福する。			課題と改善策	
事業費	3,842千円 	活動指標 (折線グラフ)	88歳敬老祝金 (総数351人：実績346人)	達成率	【課題】 住民基本台帳上での対象者の把握であり、入所、入院、子ども宅への長期滞在など、民生委員が訪問しても不在であるケースの対応が課題です。
担当課	福祉部福祉課	成果指標 (棒グラフ)	市内小学生による敬老の手紙発送数 (目標346通：実績346通)	達成率	【改善策】 日頃より、民生委員児童委員の担当地区内の状況把握に努めていただき、また包括支援センターとも連携をとる中で、円滑な対応を図っていきます。
				B	A

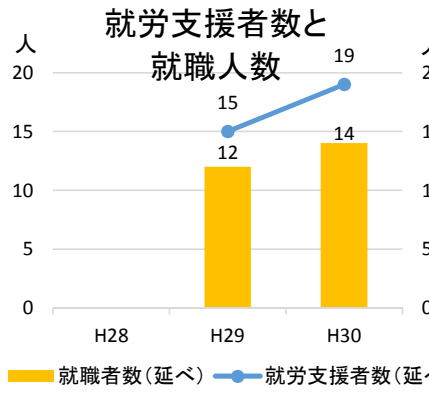

NO	72	 <p>お楽しみ給食他 配布数</p> <p>件 食</p> <p>2,784 2,660 2,712</p> <p>2,784 2,660 2,712</p> <p>0 0 696</p> <p>H28 H29 H30</p> <p>■ 給食の配食により安否を確認できた件数 ● お楽しみ給食配食数 ● 栄養補助飲料配布数</p>		評価に対する今後の方向性	維持継続
事務事業名	お楽しみ給食サービス事業			楽しみにされている高齢者が多数であることから、今後も継続して展開していきます。	
事業内容	北社市社会福祉協議会への委託事業で、社協各支所単位で実施している。各地区民生委員児童委員、ボランティア等に協力をお願いし、各地区で年4回の給食サービスと年1回の栄養補助飲料の提供を行っている。			課題と改善策	
事業費	1,281千円 	活動指標 (折線グラフ)	お楽しみ給食配食数 (目標2,800食：実績2,712食)	達成率	【課題】 ボランティアの活用と食材費の高騰に伴う予算の確保が課題となります。
担当課	福祉部福祉課	成果指標 (棒グラフ)	給食の配食により安否を確認できた件数 (目標3,408件：実績3,408件)	達成率	【改善策】 ボランティア組織及び個人ボランティアの育成を図っていきます。また、予算の確保にも努めます。
				B	A

NO	73	 <p>タクシー券利用枚数</p> <p>枚 人</p> <p>186 165 154</p> <p>19 15 10</p> <p>H28 H29 H30</p> <p>■ タクシー券利用枚数 ● サービス対象者数</p>		評価に対する今後の方向性	維持継続
事務事業名	外出支援サービス事業			判断基準をサービス調整会議の中で語りながら、今後の運用について検討していきます	
事業内容	庁内のサービス調整会議により認定された高齢者が、通院の際にタクシーを利用する場合、初乗り分を助成するタクシー券を月2枚支給する。			課題と改善策	
事業費	115千円 	活動指標 (折線グラフ)	サービス対象者数 (申請数10人：実績10人)	達成率	【課題】 ケースが多様化しており、基準に沿った判断が困難なケースがあります
担当課	福祉部福祉課	成果指標 (棒グラフ)	タクシー券利用枚数 (目標272枚：実績154枚)	達成率	【改善策】 サービス調整会議の中で、判断基準に基づき、多様化するケースに対応できるように、内容を協議し、より明確にしていきます
				A	B

# 課別事務事業評価取りまとめ表 福祉課

NO	74			評価に対する今後の方向性 維持継続
事務事業名	ふれあいペンダント事業	機器の老朽化に伴い、平成27年度から5年計画で毎年30台の機器入れ替えを実施し、本年度が最終年度でした。高齢化の進行と高齢者のみ世代の増加から必要性は高く、継続して事業展開していきます。		
事業内容	庁内のサービス調整会議により認定された高齢者が、急病等の緊急時に、自宅に設置された機械のボタンを押すことでNPO法人安心安全見守りセンターに通報され、協力員の支援のもと、迅速かつ適切な対応を図ることができる。	【課題】 事業の周知とケースが多様化しているため判定基準をわかりやすくする必要があります。		
事業費	2,711千円 	活動指標 (折線グラフ)	設置台数状況 (目標100台:実績72台)	達成率 B
担当課	福祉部福祉課	成果指標 (棒グラフ)	緊急通報件数 (総数4件:対応4件)	達成率 A
		【改善策】 広報紙またはCATVの活用等により、事業の周知を図っていきます。また、サービス調整会議での事例の研究をすすめ、判定基準をわかりやすく示していきます。		

NO	75			評価に対する今後の方向性 維持・充実
事務事業名	生活困窮者自立支援事業	生活困窮者自立支援法の改正に伴い、任意事業である就労準備支援事業、家計改善支援事業の実施は努力義務化され、令和4年度には必須事業化される可能性があります。また、利用勧奨も努力義務化され、生活困窮者への支援体制の充足・拡大の方向性は国の政策であり、生活困窮者への支援において、地域格差が生じないためにも必要であります。		
事業内容	生活困窮者への支援を行うため、福祉相談窓口を設置し、自立相談事業、生活困窮者住居確保給付及びほくとハッピーワークを活用した就労支援を行います。	【課題】 生活困窮の相談、ひきこもり等家庭内でのデリケートな内容の相談を受けるためには、地域内での気にかけてや声かけといった、困った事が重篤になる前段階で相談できる体制整備の構築が必要であり課題であります。		
事業費	11,784千円 	活動指標 (折線グラフ)	新規相談件数 (総数105件:実績105件)	達成率 A
担当課	福祉部福祉課	成果指標 (棒グラフ)	就職者数 (目標27人:実績21人)	達成率 B
		【改善策】 地域福祉の有力者である民生・児童委員への生活困窮者自立支援制度の説明を実施することで、社会保険制度(第1のセーフティーネット)や生活保護制度(第3のセーフティーネット)だけでなく、第2のセーフティーネットである生活困窮者自立支援制度の浸透を図り、地域の中で埋もれてしまっている生活困窮者を社会資源へと結びつけます。		

NO	76			評価に対する今後の方向性 維持継続
事務事業名	被保護者就労支援事業	効果の高い事業ではありますが、被保護者で働ける世帯(高齢者、母子、障害者、傷病者以外の世帯)の減少により、就労支援の対象者が減少しています。しかし社会情勢の変化への対応ができるようしながら、支援対象者や支援内容はこれまでどおりを維持して実施していきます。		
事業内容	就労支援員は、被保護者からの求職相談に応じ、求職の方法・意識・心構え等について助言したり、ほくとハッピーワーク等と連携しながら、求人情報の収集・提供を行ったりします。また、必要に応じて、履歴書の書き方や面接の受け方等について助言したり、就労が継続するよう、就業中の被保護者の相談に応じます。	【課題】 事業を継続して実施していくためには、支援対象者の確保が必要となりますので、今後は、稼働年齢層以外の方の支援にも目を向ける必要があります。		
事業費	2,271千円 	活動指標 (折線グラフ)	就労支援者数(延べ) (総数19人:実績19人)	達成率 A
担当課	福祉部福祉課	成果指標 (棒グラフ)	就職者数(延べ) (目標19人:実績14人)	達成率 B
		【改善策】 高齢者や障害者の方が経済的に自立するためには、就労収入の確保のみでは難しいため、就労支援のみならず、年金受給の可能性を丁寧に確認する等の支援をあわせて行うことで、支援対象者の自立・就労への意欲を高めていきます。		

# 課別事務事業評価取りまとめ表 福祉課

NO	77	後発医薬品使用割合			評価に対する今後の方向性	維持継続
事務事業名	医療扶助適正実施推進事業	<p>後発医薬品使用割合</p>			<p>医学的見地から後発医薬品の使用が認められない場合や、薬局で在庫切れとなっていた場合などのやむを得ない場合を除き、おおむね後発医薬品が利用されるようになりましたが、この状況を継続していくためにも、引き続き被保護者及び医療機関の理解を得ていく取り組みが必要となります。</p>	
事業内容	医療扶助相談員を配置し、後発医薬品の利用促進、頻回受診・重複受診の防止を図るとともに、医療レセプト点検の委託により、医療行為と請求が適正に行われているかを確認します。				課題と改善策	
事業費	2,227千円	活動指標の説明	指導対象の抽出数 (総数12回:実績12回)	達成率	【課題】 新たに生活保護を受給する方については、保護開始時での説明では理解できていないこともありますので、受診前に診療依頼書を受理する段階で、多受診や後発医薬品の使用等について、再度確認を行う必要があります。	
担当課	福祉部福祉課	成果指標 (棒グラフ)	後発医薬品使用割合 (目標75%:実績92.1%)	達成率	【改善策】 保護決定通知書を送付する際に、後発医薬品の使用に関する説明文を同封するなど、今後もさまざまな機会で、周知を行います。	

NO	78	いきいきねりんピック			評価に対する今後の方向性	維持継続
事務事業名	いきいき山梨ねりんピック参加事業	<p>参加者数</p>			<p>県下全域で開催される大会であることから、広域的な交流が期待でき、また、高齢者の日ごろの練習成果の発揮できる場所でもあります。そのほか県より動員要請もあることから、継続していきます。</p>	
事業内容	いきいき山梨ねりんピック実行委員会(県社協事務局)が主催する大会に参加を希望する選手を募集し、希望者のエントリー事務、また、当日の競技参加者の援助を行う。				課題と改善策	
事業費	132千円	活動指標 (折線グラフ)	いきいきねりんピック参加者数 (目標150人:実績100人)	達成率	【課題】 自主参加者を増加させるためには、大会の周知が必要です。現在、マイクロバスによる送迎を行っていますが、乗降等について援助が必要であることから、職員の添乗が必須となっており、職員の確保が課題です。県社協主催であることから、行政としてのかかわり方も課題のひとつです。	
担当課	福祉部福祉課	成果指標 (棒グラフ)	参加種目数 (目標10種目:実績6種目)	達成率	【改善策】 老人会でチーム選出する輪投げとグラウンドゴルフのみがマイクロバス利用であり、その他の競技参加者は、現地集合であることから、老人クラブ事務局である社会福祉協議会のかかわり方を検討し、社会福祉協議会と協議していきたいと考えます。または、輪投げ、グラウンドゴルフについても、自主的な参加を促していきます。広報締め切りまでに県からの開催通知が届かず、広報掲載が不可能ですが、HPやCATVを活用し、周知を図っていきます。	

NO	79	日中一時支援利用者数			評価に対する今後の方向性	維持継続
事務事業名	日中一時支援事業	<p>実利用人数</p>			<p>障害者等やその家族が安心して生活できるように支援する事業であり、事業やコストも現状を維持していく必要があります。</p>	
事業内容	対象者の支給申請に基づき、可であれば支給を決定します。対象者は指定事業所と個別に契約し、事業所にて日中活動における場の提供を受けることができます。また、家族等については、就労時・緊急時等において障害者等を事業所に一時的に預けることで、介助における負担を軽減できます。市は要した費用(委託料)を助成することで対象者の支援を図ります。				課題と改善策	
事業費	15,604千円	活動指標 (折線グラフ)	実利用者数 (目標90人:実績107人)	達成率	【課題】 介助者の就労の増加、介助者の高齢化など、日中一時支援事業の利用者が増加する一方、日中一時支援事業を含む地域生活支援事業費の国庫補助金が、事業費に対する補助率1/2を下回っており、事業費の確保が厳しくなっています。	
担当課	福祉部福祉課	成果指標 (棒グラフ)	実利用者数 (目標90人:実績107人)	達成率	【改善策】 国に対し、補助率1/2の確保を要望していきます。	

# 課別事務事業評価取りまとめ表 福祉課

NO	80	訪問入浴サービス 利用者数			評価に対する今後の方向性	維持継続
事務事業名	訪問入浴サービス事業	<p>訪問入浴サービス利用者数</p>			在宅で入浴することが困難な障害者等にとって必要な事業であるため、事業やコストも現状を維持していきます。	
事業内容	対象者の利用申請に基づき、可であれば利用決定する。対象者は市が委託契約をしている事業所と契約し、サービスの提供を受けます。				課題と改善策	
事業費	600千円	活動指標 (折線グラフ)	実利用人数 (総数1人:実績1人)	達成率	【課題】 大幅な利用者の増加はない事業ではあるが、訪問入浴サービス事業を含む地域生活支援事業費に対する国の補助率は1/2を下回っているため、事業費の確保が厳しくなっています。	
担当課	福祉部福祉課	成果指標 (棒グラフ)	実利用人数 (総数1人:実績1人)	達成率	【改善策】 国に対し、補助率1/2の確保を要望していきます。	
				A		
				A		

NO	81	タクシー利用券 利用枚数			評価に対する今後の方向性	維持継続
事務事業名	タクシー利用料金助成事業	<p>タクシー利用券利用枚数</p>			手帳の交付時に、対象となる手帳所持者には制度のご案内・説明を引き続き行っていきます。	
事業内容	対象者の申請に基づき、タクシー利用券(650円×3枚/月×交付決定をした月からその年度の3月までの月数)を交付する。				課題と改善策	
事業費	392千円	活動指標 (折線グラフ)	タクシー利用券利用者数 (目標42人:実績33人)	達成率	【課題】 既に障害者手帳を所持している方への事業の周知が必要です。	
担当課	福祉部福祉課	成果指標 (棒グラフ)	タクシー利用券利用枚数 (目標1,399枚:実績604枚)	達成率	【改善策】 サービスのご案内冊子や来庁時のご説明、ホームページ等により、事業の周知を図っていきます。	
				B		
				C		

NO	82	法人成年後見制度 研修参加人数			評価に対する今後の方向性	方法改善
事務事業名	成年後見制度法人後見支援事業	<p>法人成年後見制度研修参加人数</p>			研修会に参加する事業所が少なく、法人成年後見人制度に対する理解が薄いように感じます。研修内容等を検討し、市内の事業所に深く理解していただく事業を展開していきます。	
事業内容	成年後見制度における法人後見活動を支援するため、研修会などを開催します。				課題と改善策	
事業費	30千円	活動指標 (折線グラフ)	研修会実施回数 (目標2回:実績1回)	達成率	【課題】 事業所に法人後見人制度についての必要性を理解してもらう必要があります。	
担当課	福祉部福祉課	成果指標 (棒グラフ)	研修会参加人数 (目標10人:実績5人)	達成率	【改善策】 事業所の連絡会などにおいて法人成年後見人制度について情報提供等を行います。	
				B		
				B		

# 課別事務事業評価取りまとめ表 子育て応援課

NO	83				評価に対する今後の方向性	維持継続
事務事業名	子ども・子育て会議事業				4回の会議を開催した。放課後児童クラブの利用料、第2期子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査などについて審議をいただきました。	
事業内容	「北杜市子ども・子育て支援事業計画」の基本施策等について、計画期間である平成27～31年度の進捗状況について評価検証を行う。また、子育て施策全般について必要に応じ意見を聴取し、施策に反映させていく。	<p>【課題】 委員は充て職により委嘱している方が多いです。PTA連合会や保育園連合会の代表委員については、毎年度委員が変更するため、年度で切り替わる委員の枠を減少し、安定した審議を行うため、任期中の変更がない学識経験者の委員の増加を検討したいです。</p>			課題と改善策	
事業費	120千円	活動指標 (折線グラフ)	子ども・子育て会議議題件数 (実績: 11件)	達成率	-	
担当課	福祉部子育て応援課	成果指標 (棒グラフ)	子ども・子育て支援事業計画策定に係るアンケート回収率 (目標50%: 実績66%)	達成率	A	
					【改善策】 推薦等により、学識経験者枠での委員を選任します。	

NO	84				評価に対する今後の方向性	維持継続
事務事業名	児童館運営事業				各児童館で英語教室や囲碁教室、親子3B体操の実施など、児童や乳幼児親子が参加できるプログラムを行っており、子ども達にも楽しんでもらっています。	
事業内容	(1)健全な遊びを通じて、児童の集団及び個別指導の実施並びに中学生、高校生等の自主的な活動に対する支援を行う。(2)母親クラブ、子どもクラブ等の地域組織活動の育成助長及びその指導者の養成を図る。(3)子育てに対して不安や悩みを抱える母親からの相談に応じるなど、子育て家庭の支援を行う。	<p>【課題】 子どもの健全育成に繋がるよう、子ども達が飽きないプログラムを工夫していく必要があります。</p>			課題と改善策	
事業費	11,626千円	活動指標 (折線グラフ)	開館日数 (目標976日: 実績972日)	達成率	B	
担当課	福祉部子育て応援課	成果指標 (棒グラフ)	利用者数 (目標23,000人: 実績22,938人)	達成率	B	
					【改善策】 研修等に参加して新たなプログラムを学んでもらいます。	

NO	85				評価に対する今後の方向性	維持継続
事務事業名	保育園施設整備事業				施設整備については、北杜私立保育園整備計画に基づき、地元や保護者の理解を得ながら進めていくものです。評価内容については、整備に向けた取組みとし、実施設計、工事着手、工事完了と進捗がわかりやすいものとなりました。	
事業内容	平成29年度に策定した、北杜市立保育園整備計画を基に計画的な整備を行う。令和元年実施設計を行っている(仮称)小淵沢保育園整備事業を含めた市内保育園の環境整備を実施する。	活動指標の説明	整備計画に基づき、小淵沢保育園建設事業に取り組んでいますが、平成30年度については、事業実施概要、建設場所選定等の諸課題に取り組んでいるため指標の設定はしていません。	達成率	-	
事業費	596,278千円	成果指標の説明	整備計画に基づき、整備に向けた主要な取組みの事前段階として諸課題の整理を行ったため成果指標はありません。	達成率	-	
担当課	福祉部子育て応援課				【課題】 北杜市立保育園整備計画に基づき、事業を進めていくと同時に、財政協議や地元との調整を事前に行います。	
					【改善策】 個別事業についての計画を立てて進捗管理を行っていきます。	

# 課別事務事業評価取りまとめ表 子育て応援課

NO	86	母子家庭等自立支援 給付金事業申請件数			評価に対する今後の方向性	維持継続												
事務事業名	母子家庭等自立支援給付金事業	<table border="1"> <caption>母子家庭等自立支援給付金事業申請件数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>事業申請件数</th> <th>相談件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>			年度	事業申請件数	相談件数	H28	0	1	H29	1	2	H30	2	2	制度を利用し、就職に有利な資格取得者が増えることが、自立し安定した生活を送る手助けになると考えています。	
年度	事業申請件数	相談件数																
H28	0	1																
H29	1	2																
H30	2	2																
事業内容	ひとり親家庭の親の雇用の安定及び就職の促進を図るため、母子及び寡婦福祉法第31条に規定する母子家庭等自立支援給付金(自立支援教育訓練給付金、高等技能訓練促進費、入学支援修了一時金)を支給する。				課題と改善策													
事業費	1,700千円	活動指標 (折線グラフ)	相談件数 (総数2件:実績2件)	達成率	【課題】 対象となる方たちへの周知が必要です。													
担当課	福祉部子育て応援課	成果指標 (棒グラフ)	事業申請件数 (実績2件)	達成率	【改善策】 現況届提出時などに、制度の周知を行っていきます。													
				A														
				-														

NO	87	ひとり親家庭医療費 助成件数			評価に対する今後の方向性	維持継続												
事務事業名	ひとり親家庭医療費助成事業	<table border="1"> <caption>ひとり親家庭医療費助成件数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>受給家庭数</th> <th>助成件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>276</td> <td>8,596</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>272</td> <td>7,882</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>270</td> <td>8,032</td> </tr> </tbody> </table>			年度	受給家庭数	助成件数	H28	276	8,596	H29	272	7,882	H30	270	8,032	ひとり親家庭の経済的負担の軽減のため、現状維持を保ちます。	
年度	受給家庭数	助成件数																
H28	276	8,596																
H29	272	7,882																
H30	270	8,032																
事業内容	ひとり親家庭の親と子に対して、医療費の一部負担金として負担すべき額を医療費助成金として支給し、医療費を無料化する。医療費助成金の支給は、窓口無料化または償還払いによって行う。対象者の所得税が非課税等の所得制限がある。				課題と改善策													
事業費	19,403千円	活動指標 (折線グラフ)	助成件数 (総数8,032件:実績8,032件)	達成率	【課題】 制度が継続的に続けられるよう、コンビニ受診を避け適正な受診が必要です。													
担当課	福祉部子育て応援課	成果指標 (棒グラフ)	受給家庭数 (総数270件:実績270件)	達成率	【改善策】 コンビニ受診を抑えるため、申請時に適正な受診の周知を行います。													
				A														
				A														

# 課別事務事業評価取りまとめ表 ほくとっこ元気課

NO	88	<h2 style="text-align: center;">保育園児のむし歯</h2> <h3 style="text-align: center;">なし率</h3> <table border="1"> <caption>保育園児のむし歯なし率と集団指導回数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>保育園児のむし歯なし率 (%)</th> <th>集団指導回数 (回)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>63.6</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>68</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>62.6</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table>			年度	保育園児のむし歯なし率 (%)	集団指導回数 (回)	H28	63.6	16	H29	68	16	H30	62.6	16	評価に対する今後の方向性 維持継続
年度	保育園児のむし歯なし率 (%)	集団指導回数 (回)															
H28	63.6	16															
H29	68	16															
H30	62.6	16															
事務事業名	口腔衛生事業	各保育園に歯科衛生士が出向き、園児に対して、むし歯になる経緯を教材を使って集団教育を行い、赤染をしながら正しいブラッシングについての個別指導を行う。			園児への指導のみでは、正しいブラッシング方法の定着が確実ではありません。保護者に事業への参加をしてもらえるように、保育園と連携しながら周知していきます。また、保護者が参加しやすい方法を検討するため、年中児に行う5歳児相談と同時開催できるかモデル的に実施し検討したいと思います。												
事業費	179千円	活動指標 (折線グラフ) 集団指導回数 (目標16回:実績16回)	達成率 A	課題と改善策 【課題】 3歳児健診までに齲歯を保有している児は、その後も齲歯が増加していく傾向があります。乳幼児健診時から、集団指導だけでなく個別指導を行いながら、保護者へ意識づけを行う必要があります。 【改善策】 3歳児健診までに、口腔ケアの必要性について保護者への意識づけを行います。また、この事業に対する保護者の参加率を上げる工夫を検討していきます。													
担当課	福祉部ほくとっこ元気課	成果指標 (棒グラフ) 保育園児のむし歯なし率 (目標80%:実績62.6%)	達成率 B														

NO	89	<h2 style="text-align: center;">児童虐待相談件数</h2> <table border="1"> <caption>児童虐待相談件数と会議開催回数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>児童虐待相談件数 (件)</th> <th>代表者会議の開催回数 (回)</th> <th>実務者会議の開催回数 (回)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>15</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>15</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>24</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>			年度	児童虐待相談件数 (件)	代表者会議の開催回数 (回)	実務者会議の開催回数 (回)	H28	15	4	1	H29	15	4	1	H30	24	4	1	評価に対する今後の方向性 維持継続
年度	児童虐待相談件数 (件)	代表者会議の開催回数 (回)	実務者会議の開催回数 (回)																		
H28	15	4	1																		
H29	15	4	1																		
H30	24	4	1																		
事務事業名	要保護児童対策地域協議会事業	①代表者会議 1回:平成30年7月12日(23名) ②実務者会議 4回:平成30年5月17日(14名)、8月17日(4名)、11月15日(11名)、平成31年2月15日(5名) ③個別ケース会議 7回:平成30年5月、8月、11月×2、12月、平成31年2月×2			児童虐待等に関する情報を早期に収集し、関係機関で共有することができるため、初期段階での対応が可能となります。																
事業費	3千円	活動指標 (折線グラフ) 実務者会議の開催 (目標4回:実績4回)	達成率 A	課題と改善策 【課題】 児童福祉法や国、県の施策に応じて、現状どおり関係機関との情報共有や連絡調整を緊密に行っていきます。 【改善策】 引き続き、児童福祉法や国、県の施策に応じて、現状どおり関係機関との情報共有や連絡調整を緊密に行っていきます。																	
担当課	福祉部ほくとっこ元気課	成果指標 (棒グラフ) 児童虐待相談件数 (総数24件:実績24件)	達成率 A																		

NO	90	<h2 style="text-align: center;">出産祝金支給者の定住率</h2> <table border="1"> <caption>出産祝金支給者の定住率と支給件数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>祝金支給者の定住率 (%)</th> <th>支給件数 (件)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>108</td> <td>108</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>96</td> <td>123</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>99</td> <td>125</td> </tr> </tbody> </table>			年度	祝金支給者の定住率 (%)	支給件数 (件)	H28	108	108	H29	96	123	H30	99	125	評価に対する今後の方向性 方法改善
年度	祝金支給者の定住率 (%)	支給件数 (件)															
H28	108	108															
H29	96	123															
H30	99	125															
事務事業名	出産祝金支給事業	出産前6カ月以上本市に住所があり、出産後も本市に新生児とともに5年以上定住する意思のある養育者に支給。(第2子50,000円、第3子300,000円、第4子以降500,000円)			出生数はほぼ横ばいです。今後は子育て世代のニーズや時代に即した制度となるよう検証を行っていきます。												
事業費	22,050千円	活動指標 (折線グラフ) 支給件数 (目標123件:実績125件)	達成率 A	課題と改善策 【課題】 北杜市の祝金は全国的にみても高額ですが、目立って出生数は増加していません。15年続けてきた事業ですが、支給額に対する成果が表れているかは疑問です。支給者の約1割が転出していることをみても当事業で定住促進が図れているとも言いきれません。一部の世帯だけに高額な祝金を支給するよりも、子育て世代全般に公平公正にサービスが行きわたるよう検討していく必要があります。 【改善策】 「子ども・子育て会議」の意見を聞き、検討してまいります。													
担当課	福祉部ほくとっこ元気課	成果指標 (棒グラフ) 祝金支給者の定住率 (目標100%:実績99%)	達成率 B														



# 課別事務事業評価取りまとめ表 ほくとっこ元気課

NO	91	子育て相談件数			評価に対する今後の方向性	維持継続
事務事業名	利用者支援事業				利用者支援専門員2名が、つどいの広場や放課後児童クラブ等を訪問し、保護者や職員とコミュニケーションを図る中で虐待の早期発見や、専門相談員、保健師などへのつなぎを行っていく体制を維持していきます。また、より効果が見えるように、関係機関へつないだ件数を把握していきます。	
事業内容	子ども・子育て支援法に基づき、保護者等が、地域の子ども・子育て支援事業等を円滑に利用できるよう、保護者等の相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うとともに、関係機関との連絡調整を総合的に実施します。				課題と改善策	
事業費	6,320千円	活動指標 (折線グラフ)	相談件数 (目標200件:実績1,512件)	達成率	【課題】子ども・子育て支援法や国、県の施策に応じて、現状どおり関係機関との情報共有や連絡調整を緊密に行っていきます。	
担当課	福祉部ほくとっこ元気課	成果指標の説明	目標設定はふさわしくないため実績数とします。	達成率	【改善策】引き続き、子ども・子育て支援法や国、県の施策に応じて、現状どおり関係機関との情報共有や連絡調整を緊密に行っていきます。	

NO	92	家庭児童相談室での相談件数			評価に対する今後の方向性	維持・充実
事務事業名	家庭児童相談室運営事業				児童福祉法改正により、2022年度までに「子ども家庭総合支援拠点」の整備が義務づけられており、子ども家庭支援員を2名常勤で配置することなどが必要であります。	
事業内容	主な相談内容:養育相談、心身障害相談、非行相談、育成相談 相談方法:電話、面接、訪問等 その他:関係機関との連携				課題と改善策	
事業費	4,020千円	活動指標 (折線グラフ)	保育園、学校訪問件数 (目標34件:実績34件)	達成率	【課題】現状ではすでに常時2名が配置されていますが(家庭児童相談員、母子父子自立支援員)、兼任職員の充実が必要です。	
担当課	福祉部ほくとっこ元気課	成果指標(棒グラフ)	相談件数 (総数961件:実績961件)	達成率	【改善策】適切な人員配置等検討していく必要があります。	

NO	93	初産婦の参加率			評価に対する今後の方向性	維持継続
事務事業名	ママパパ学級事業				1クールに2回土曜日開催を行うことで、夫婦での参加が増えてきています。また、年間日程で開催日をお知らせしていることで、日程調整しやすくなっています。さらに、決められた日程に参加できない場合は、助産師の相談日を利用して相談に来る妊婦も増えています。	
事業内容	1コース4回を年3回開催。保健師・助産師・栄養士・歯科衛生士による専門的な教育を行って参加者が妊娠・出産・育児について学ぶ。また、市内の妊婦同士が交流できる場とし、仲間づくりを行っている。さらに、妊娠中や産後の生活を両親共に身近に感じられるよう、育児体験談の紹介や赤ちゃんだっこ体験、夫に対する妊婦疑似体験も実施している。				課題と改善策	
事業費	72千円	活動指標 (折線グラフ)	教室の満足度 (目標100%:実績97.7%)	達成率	【課題】初産の参加率が微増であり、目標達成までには至っていません。	
担当課	福祉部ほくとっこ元気課	成果指標(棒グラフ)	初産婦の参加率 (目標50%:実績31.3%)	達成率	【改善策】妊娠期の関わりについて、病院で開催されている教室のみの参加になっている人がいます。市で開催しているママパパ学級のメリットについて、母子健康手帳交付時に伝えていくことで、初産の参加率を増やしていくようにしていきます。	

# 課別事務事業評価取りまとめ表 ほくとっこ元気課

NO	94	母と子の相談件数			評価に対する今後の方向性	維持継続											
事務事業名	妊娠・出産包括支援事業	<p>母と子の相談件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>各種教室の参加数(延べ)</th> <th>母と子の相談件数(延べ)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>737</td> <td>172</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>677</td> <td>194</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>813</td> <td>241</td> </tr> </tbody> </table>			年度	各種教室の参加数(延べ)	母と子の相談件数(延べ)	H28	737	172	H29	677	194	H30	813	241	教室に参加したことがきっかけで、仲間づくりにもなり、教室後もセンターに多く残っている人も多くいます。参加後の満足度は高くリピーターもいるので、今後も各種教室を継続し開催していきます。
年度	各種教室の参加数(延べ)	母と子の相談件数(延べ)															
H28	737	172															
H29	677	194															
H30	813	241															
事業内容	保健師・助産師が市保健センターに常駐し、母と子の相談室を設置し妊娠中やお産の悩み、母乳ケア、赤ちゃんの発育等の相談を行う。また、ベビーマッサージ教室など、教室を開催し、育児についての技術、関わり方等を学び、母親同士の交流の場とする。	活動指標 (折線グラフ)	母と子の相談件数(延べ) (目標200件:実績241件)	達成率	課題と改善策												
事業費	5,012千円	成果指標(棒グラフ)	各種教室の参加数(延べ) (目標750人:実績813人)	達成率	【課題】 さらに充実した事業とするために、妊娠出産子育て期にわたる支援の中で、特に就園や就学に向けて発達に課題を抱える子供や保護者への相談支援体制の確立が重要です。												
担当課	福祉部ほくとっこ元気課				【改善策】 育児不安やストレスなど専門職により相談対応するために臨床心理士の人材確保が必要です。												

NO	95	心理士相談による不安解消率			評価に対する今後の方向性	維持継続											
事務事業名	親子すくすく相談事業	<p>心理士相談による不安解消率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>不安解消による満足度</th> <th>心理士相談の利用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>100</td> <td>51</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>96.2</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>96.2</td> <td>52</td> </tr> </tbody> </table>			年度	不安解消による満足度	心理士相談の利用者数	H28	100	51	H29	96.2	54	H30	96.2	52	子どもの数は減少傾向にあります。DMS5(精神疾患の診断と統計マニュアル)が2014年に改定をされ、吃音やゲーム依存などの幅広い疾患も含まれるようになっていきます。将来的に発達や精神的な障害につながりそうな心配を抱えている児に対して、幅広く支援ができる体制が必要になっています。そのため、現状の支援体制の維持が必要です。
年度	不安解消による満足度	心理士相談の利用者数															
H28	100	51															
H29	96.2	54															
H30	96.2	52															
事業内容	子どもの特性を保護者が知ることや育児不安や言葉の発達に関して対応方法が理解できることで、子どもの発達を促し、子育てへの負担感が軽減するよう、言語聴覚士・臨床心理士・保健師により個別相談を行います。	活動指標 (折線グラフ)	心理士相談の利用者数 (総数52人:実績52人)	達成率	課題と改善策												
事業費	195千円	成果指標(棒グラフ)	不安解消による満足度 (目標100%:実績96.2%)	達成率	【課題】 予算の確保が困難になっている中ですが、指導技術のある言語聴覚士の継続した確保が必要です。その他、保健師の数が減少する中で、対象者の早期把握を行い、保護者と問題を話し合い支援につなぐ事のできる保育士などの存在が大変、大切になってきます。発達障害児の支援に関する事業全般に言える事ですが、保育士など児童に関わる職員の発達に対する正しい理解・支援方法の学びの場が必要です。												
担当課	福祉部ほくとっこ元気課				【改善策】 保育士の研修の実施を所管である子育て応援課と検討していきます。												

NO	96	養育支援ヘルパー利用者数			評価に対する今後の方向性	維持継続											
事務事業名	養育支援訪問事業	<p>養育支援ヘルパー利用者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>利用者数</th> <th>利用日数(延べ)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>9</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>5</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>4</td> <td>18</td> </tr> </tbody> </table>			年度	利用者数	利用日数(延べ)	H28	9	65	H29	5	16	H30	4	18	利用者は少ないが、支援を受けにくい家庭にとっては、産婦の家事負担、育児負担の軽減につながり孤立感の解消にもつながります。保健師のアセスメントにより必要な方には利用できるようにしていきます。
年度	利用者数	利用日数(延べ)															
H28	9	65															
H29	5	16															
H30	4	18															
事業内容	養育支援ヘルパーの派遣: 妊娠中は5回、出産後2カ月までは15回、さらに体調不良で日常生活に支障を来た場合は3カ月まで5回を追加できる。双子以上の場合は、出産後1年以内に35回を限度としている。	活動指標 (折線グラフ)	利用者数 (総数4名:実績4名)	達成率	課題と改善策												
事業費	65千円	成果指標の説明	聞き取り調査などで利用者の満足度を把握します。	達成率	【課題】 対象家庭の条件から、無料になる家庭の要件に要支援家庭とあり負担の在り方に課題があります。												
担当課	福祉部ほくとっこ元気課				【改善策】 対象家庭の中の要支援家庭については、要保護児童対策地域協議会の支援対象となるため、家庭児童相談員と連携し、負担についても検討します。												

# 課別事務事業評価取りまとめ表 ほくとっこ元気課

NO	97	乳児訪問件数			評価に対する今後の方向性	維持継続											
事務事業名	乳児全戸訪問事業	<table border="1"> <caption>乳児訪問件数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>訪問実施率 (%)</th> <th>訪問件数 (件)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>99</td> <td>197</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>99</td> <td>198</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>99.5</td> <td>213</td> </tr> </tbody> </table>			年度	訪問実施率 (%)	訪問件数 (件)	H28	99	197	H29	99	198	H30	99.5	213	訪問できなかった1件は、経産婦であり長期の里帰りでした。訪問という形はとれませんでした。状況把握、情報提供に努めました。全数に対し早期に状態を確認することができています。また、ケースによっては保健師でなく助産師が訪問をすることもあり、状況に即して専門性を発揮した訪問をするようにしています。
年度	訪問実施率 (%)	訪問件数 (件)															
H28	99	197															
H29	99	198															
H30	99.5	213															
事業内容	保健師等による家庭訪問を実施し、①乳児の身体計測、問診・観察、②母の育児に関する不安や悩みの相談、③母子保健事業や子育て支援に関するサービスの説明、④支援が必要な家庭には、提供するサービスの検討や関係機関との連絡調整を行う。	活動指標 (折線グラフ)	訪問件数 (目標214件:実績213件)	達成率	課題と改善策												
事業費	57千円	成果指標 (棒グラフ)	訪問実施率 (目標100%:実績99.5%)	B	【課題】 予防接種やスキンケア、離乳食の進め方等育児方針も多様化しています。健やかな成長のために、母子健康手帳交付時から保護者の考えや生活スタイル、育児方針等確認していく必要があります。支援者としての関係づくりを行い、保護者の思いに寄り添いながら母子ともに成長発達を促せる支援が必要です。												
担当課	福祉部ほくとっこ元気課			B	【改善策】 母子健康手帳交付時に、身体、精神、経済等あらゆる方面からのアセスメントをしっかりと行い、対象者把握に努めます。また、妊娠期の状況把握のための電話連絡等関係づくりを行いながら、産後も寄り添える支援を行えるように専門職としても質を高めていきます。												

NO	98	親子のびのび教室 参加者数			評価に対する今後の方向性	維持継続											
事務事業名	親子のびのび教室事業	<table border="1"> <caption>親子のびのび教室参加者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>対象となる親子の参加者数 (延べ) (人)</th> <th>開催数 (回)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>194</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>192</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>252</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table>			年度	対象となる親子の参加者数 (延べ) (人)	開催数 (回)	H28	194	12	H29	192	12	H30	252	12	妥当性の説明でも記載しましたが、母子のかかわり方について目で見ても、模倣をすることは、一度実行をしていることから身につけやすいと考えます。同じような悩みや特性を持つ親子の母子を同一の場に集めることで、ピアカウンセリング的な一面も持ちます。心理士が調整役となり問題を解決しながら前向きに育児に取り組めるための、考える場にもなっています。
年度	対象となる親子の参加者数 (延べ) (人)	開催数 (回)															
H28	194	12															
H29	192	12															
H30	252	12															
事業内容	月1回開催。スタッフは保健師、臨床心理士、保育士。身体全体を使った遊びを通して交流を行う。コミュニケーションの取り方、遊ばせ方、親子の接し方を実際に学ぶ。子どもの発達発達を促すため、心理士を中心に保護者同士の情報交換を行う。	活動指標 (折線グラフ)	開催数 (目標12回:実績12回)	達成率	課題と改善策												
事業費	69千円	成果指標 (棒グラフ)	対象となる親子の参加者数 (延べ) (目標200人:実績252人)	A	【課題】 発達障害児等の支援を組み立てていく上で、すすく相談・本事業、ぶんぶき(週一回開催の個別療育訓練事業)、ほっとルームの効果的な連携を一つのシステムとして企画化し、情報を連携していく必要があります。												
担当課	福祉部ほくとっこ元気課			A	【改善策】 現在、事業がまとまった予算の中で運営されていません。一連の流れを作っていく上で、システムとして運営を一本化していくことから調整をしていくことが必要と考えます。												

NO	99	5歳児相談参加率			評価に対する今後の方向性	方法改善											
事務事業名	5歳児相談事業	<table border="1"> <caption>5歳児相談参加率</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>相談参加率 (%)</th> <th>事業実施状況の中の要観察者の割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>94.9</td> <td>29.8</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>95.6</td> <td>27.4</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>96.6</td> <td>36.2</td> </tr> </tbody> </table>			年度	相談参加率 (%)	事業実施状況の中の要観察者の割合 (%)	H28	94.9	29.8	H29	95.6	27.4	H30	96.6	36.2	ほくとっこ元気課の保健師数の減少に伴い、問診や児の行動の確認などに多くのマンパワーを必要とすることから、業務の効率化の検討が不可欠です。雇い上げ保健師の活用には人材コストは必要であります。
年度	相談参加率 (%)	事業実施状況の中の要観察者の割合 (%)															
H28	94.9	29.8															
H29	95.6	27.4															
H30	96.6	36.2															
事業内容	・16カ所の市内保育園(公立14・私立2)を巡回して実施しています。また、市外の保育園、幼稚園に通園している児については市保健センターで実施しています。 ・保健師、栄養士、臨床心理士、保育士、教育委員会で情報共有しながら問診、集団あそび、講話(食育、就学に向けて)、心理相談等を行い、就学に向けての方向性を見出すことを目的としています。	活動指標 (折線グラフ)	事業実施状況の中の要観察者の割合 (目標30%:実績36.2%)	達成率	課題と改善策												
事業費	175千円	成果指標 (棒グラフ)	相談参加率 (目標100%:実績96.6%)	A	【課題】 支援を必要とする児に対し、保護者が支援の必要性を感じるには限らず、相談後のフォローが重要になります。また、活動指標から目標値を上回る要観察者の割合となっています。早期対応が必要となりますが、スタッフ不足で全員への早期対応ができないことが課題です。なお、実施してきたデータの精査とこれから積み上げていく数字の見直しが必要です。												
担当課	福祉部ほくとっこ元気課			B	【改善策】 フォローをするための体制づくりと、就学に向けての切れ目のない支援のための情報伝達のシステムづくりが必要になるため、教育委員会、関係機関などと連携しながら実施していきます。スタッフ不足については、雇い上げ保健師を有効活用するとともに、事業の中の職員の役割の見直しをし、人員確保について関係部署と協議していきます。												

# 課別事務事業評価取りまとめ表 ほくとっこ元気課

NO	100	事業の周知回数			評価に対する今後の方向性	維持継続
事務事業名	小児慢性特定疾患児日常生活用具給付事業				日常生活に著しく支障のある小児慢性疾患児にとって日常生活用具は必要不可欠であるため、今後も国の要綱に基づき事業を行っていきます。	
事業内容	小児慢性特定疾患にかかっていることにより、長期にわたり療養を必要とする児童等が在宅で生活していくための日常生活用具を給付します。				課題と改善策	
					【課題】 情報共有など、県や市障害福祉担当課との連携を維持していきます。	
					【改善策】 原状どおりのため改善策はありません。	
事業費	0円	活動指標 (折線グラフ)	周知回数 (目標1回:実績1回)	達成率		
				A		
担当課	福祉部ほくとっこ元気課	成果指標の説明	障害者手帳からの給付が優先されるため、補助の実績はありませんが、対象者が出た場合には必要な事業になります。			達成率
						-

NO	101	思春期教室参加者数			評価に対する今後の方向性	維持継続
事務事業名	思春期教育事業				現在は、学校のニーズに沿って外部講師と市の保健師から講師の選択をしてもらっています。外部講師を依頼する場合には、1講義2時間の設定になっていることから、学校のカリキュラムによっては、開催が困難になっています。その場合、市の保健師が対応し、学校の時間割に合わせていますので、大幅な教育プログラムの変更がない場合には、現状の維持になります。	
事業内容	外部講師や保健師が中学校に出向き、生徒や保護者を対象に、命の誕生・子育ての様子等を通して大切に守られ育ってきたことを話します。また、赤ちゃんとお母さんに協力してもらい、赤ちゃん抱っこ体験を行います。				課題と改善策	
					【課題】 保健師の数が減少している中で、現在は一校のみ保健師が対応していますが、学校側から市の保健師の依頼が増えた場合には、思春期学習の開催時期が就学児健診のシーズンと重複するため、実施時期の調整が必要になってきます。	
					【改善策】 学校の養護教諭が開催をし、市で協力をするスタイルの検討など、現在の方法に囚われない学習方法について模索していく必要もあります。	
事業費	207千円	活動指標 (折線グラフ)	思春期教育の実施学校数 (目標9校:実績7校)	達成率		
				B		
担当課	福祉部ほくとっこ元気課	成果指標(棒グラフ)	生徒・保護者の参加者数 (目標520人:実績416人)			達成率
						B

NO	102	母子相談員研修会開催回数			評価に対する今後の方向性	方法改善
事務事業名	母子相談員事業				母子相談員の資質向上のための研修は実施していますが、地域での母子家庭等の見守りが主な仕事となっており、直接的なかかわりは少ない状況であります。今後は民生委員の学校訪問等の事業に参画するなど相談員の活動の場のあり方を検討していきます。	
事業内容	ひとり親家庭を対象に身上相談に応じ、その自立に必要な指導を行い、生活意欲の向上を図ります。				課題と改善策	
					【課題】 知名度の低さ、役割のあいまいさを克服しなければなりません。	
					【改善策】 活動内容の見直し等、事業のあり方について検討していきます。市母子寡婦福祉連合会、民生委員会など他の関係機関と調整して共同事業等を模索していきます。	
事業費	80千円	活動指標 (折線グラフ)	連絡会、研修会の実施 (目標3回:実績3回)	達成率		
				A		
担当課	福祉部ほくとっこ元気課	成果指標(棒グラフ)	個別相談件数 (目標24件:実績0件)			達成率
						C